

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 27/Nov/2017/vol.471



ヒイラギ “Hiragi” “Holly leaf”

ヒイラギは日本においては、ギザギザの棘に触るとヒリヒリすることから、「疼（ひひら）く」から「疼（ひいら）ぎ」としたという語源があるそうです。その名の通りに見ただけで、さっと手を引っ込めたいような鋭角な葉姿が特徴的です。クリスマスが日本の行事にすっかりと溶け込んでいる今では、ヒイラギは1年の終わりを告げる風景、あるいはクリスマスツリーには欠かせないオブジェとなってシーズンを彩ります。クリスマスがイエスキリストの生誕を祝い、同じ時期の冬至から太陽がよみがえるという意味合いもかねて、常緑樹であるヒイラギ（ヨーロッパではセイヨウヒイラギ）が、寒い季節にこそ赤い実をつける「生」への象徴であるといわれてきたことがベースにあったようです。日本での柗（ひいらぎ）とは種類も違うようで、セイヨウヒイラギは冬に赤い実をつけ、日本の柗は夏場ごろに黒っぽい色の実をつけます。葉は似ているので、日本のヒイラギもこの季節からあしらいや飾りとして活躍を始めます。日本においての柗（ヒイラギ）は邪気除けとして昔から庭木に使われ、2月の節分には柗鏝を家の入口に飾り、鬼を寄せ付けたい意味合いで使われるのも実は古くは平安時代からあったようです。これからの季節、ヒイラギは日本においても海外においても冬を色濃く印象付ける季節のオブジェでもあるのです。